

令和5年度 決算報告

決算

令和5年度の一般会計の決算規模は、歳入総額280億4692万円、歳出総額263億7463万円となり、歳入歳出ともに前年度を下回りました。

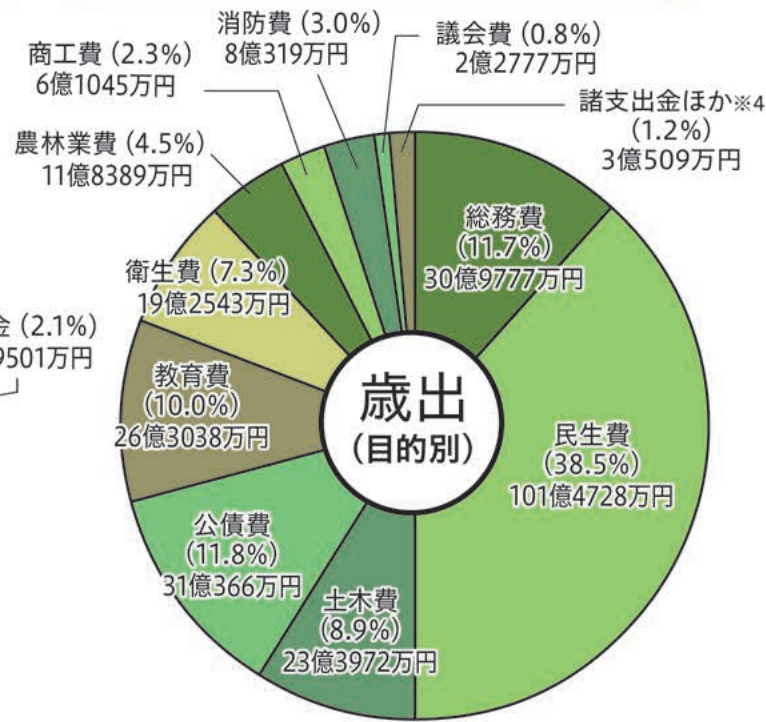
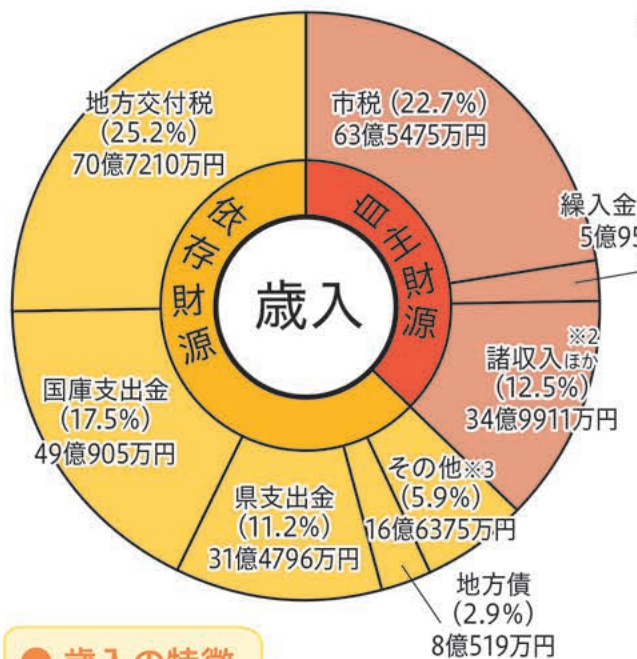
01 一般会計決算

一般会計とは、皆さんからの税金などを財源として、福祉、教育、まちづくりなど市の基本的な行政運営を行う会計です。

歳入総額 280億4692万円
(市民一人当たり約59万円)※1

歳出総額 263億7463万円
(市民一人当たり約56万円)※1

自主財源・・・市が独自に徴収することができるお金
依存財源・・・国や県などから入ってくるお金



● 歳入の特徴

一般会計歳入総額は280億4692万円となり、前年度と比較して33億658万円(△10.5%)の減となりました。社会資本整備総合交付金(新体育館整備事業・駅周辺整備事業)や新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の減、地方債借入の減により依存財源が減少しました。

● 歳出の特徴

一般会計歳出総額は263億7463万円となり、前年度と比較して33億3613万円(△11.2%)の減となりました。西九州新幹線開業による駅周辺整備事業(土木費)の減や、新体育館建設事業(教育費)の終了による減が主な要因です。

※1 市民一人当たりの金額は、令和5年12月末現在の住民基本台帳人口47,463人で算出
※2 「諸収入ほか」は、諸収入、繰越金、寄附金、財産収入、分担金・負担金、使用料・手数料の合計
※3 「その他」は、地方譲与税と地方消費税交付金などの各種交付金の合計
※4 「諸支出金ほか」は、諸支出金、災害復旧費、労働費の合計

令和6年度上半期 歳入歳出予算の執行状況

市では、財政状況の公表を年2回行っています。令和6年度上半期の財政状況(令和6年9月30日現在)は次のとおりです。

会計名	予算額	収入済額	支出済額
一般会計	293億3237万円	122億8440万円	120億6319万円
特別会計	352億5921万円	194億4449万円	172億5328万円

・特別会計
令和6年度は国民健康保険、後期高齢者医療、競輪事業、給湯事業、新工業団地整備事業、国道34号用地先行取得事業の6つ。

02 特別会計決算

特別会計とは、料金収入などにより特定の事業を行う場合に、経理を明確に区分するために設ける会計のことです。令和5年度は6つの特別会計を設けており、それぞれの決算額は右のようになりました。

会計区分	歳入	歳出	差引
国民健康保険	61億 717万円	59億3200万円	1億7517万円
後期高齢者医療保険	7億5946万円	7億5657万円	289万円
競輪事業	313億 235万円	300億9883万円	12億 352万円
給湯事業	6469万円	5916万円	553万円
新工業団地整備事業	1709万円	1702万円	7万円
国道34号用地先行取得事業	2億4717万円	2億4717万円	0万円

03 企業会計決算

企業会計とは、特定の事業を行う会計のうち、地方公営企業法の適用を受けて独立採算を行う会計で、武雄市には2つの会計があります。

区分	収入	支出	差引	
工業用水道事業	収益的	6956万円	6955万円	1万円
	資本的	0万円	0万円	0万円
下水道事業	収益的	15億1898万円	12億 115万円	3億1783万円
	資本的	9億9584万円	15億8089万円	△5億8505万円

収益的
▶営業活動によるもの
資本的
▶建設改良などによるもの

※下水道事業会計の資本的収支については赤字となっていますが、貯金等で対応しています。
※工業用水道事業は、施設改良などの建設事業がなかったため、資本的収支は0(ゼロ)となりました。

04 健全化判断比率

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき、令和5年度決算における「健全化判断比率」をお知らせします。この指標は、値が小さいほど財政が健全であることを示します。武雄市は、いずれの指標も基準内をキープしています。

指標	武雄市	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—	12.86	20.0
連結実質赤字比率	—	17.86	30.0
実質公債費比率	10.5	25.0	35.0
将来負担比率	10.5	350.0	基準なし

(単位：%)

▼実質赤字比率

一般会計等の赤字額の標準的な収入規模に対する割合です。武雄市は黒字でした。(県内全て黒字)

▼連結実質赤字比率

市の全会計(一般会計、特別会計及び企業会計)を合算した赤字額の標準的な収入規模に対する割合です。武雄市は黒字でした。(県内全て黒字)

▼実質公債費比率

一般会計等の借入金の返済額の標準的な収入規模に対する割合です。武雄市は10.5%で前年度より0.6%上昇しました。

▼将来負担比率

借入金の返済など将来支払うべき負債額の標準的な収入規模に対する割合です。武雄市は10.5%で、前年度より11.7%減少しました。



市の予算・財政状況
たけおポータルから
ご確認ください。

○一般会計の市債(借入金)の現在高
249億9192万円

・市債…公共施設を整備するため等の借入金